

関東蒲生会令和元年度 かわら版

発行：令和元年8月3日

令和元年の日本遺産に「蒲生の麓」が認定されました

関東蒲生会 会長 山下 憲男

関東蒲生会会員の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

関東蒲生会の総会を会員のご協力のもとで、単独で開催してまいりましたが、ご承知のように、昨年度から関東始良市ふるさと会としまして、関東蒲生会、関東始良町会、東京加治木会と一緒に(合同で)総会・懇親会を開催することになりました。

懇親会では、蒲生のテーブルを設けたり景品としましては、蒲生の菜種油、加治木饅頭、つけあげ、芋焼酎、蜂蜜、ちまき、もち米などを用意しようと思っておりますので、皆様方お誘いあわせの上ご来場を賜りますようお願い申し上げます。

一方、皆様方のふるさと蒲生町は令和元年5月20日に文化庁の日本遺産に認定されました。

認定のポイントは地域に伝わる文化や風習、史跡などを一つのストーリーにしてつなぎ、歴史的価値を認めたものです。ストーリーの概要は「薩摩の武士が生まれた町、家屋敷群『麓ふもと』、勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地。

そこには、本城の鹿児島城跡や、県内各地の山城跡の周辺に配置された麓と呼ばれる外城の武家屋敷群が数多く残っています。

麓は、防御に適した場所に作られ、門と玄関の間に生垣を配置する等、まるで城の中のように敵に備えた構造を持っていました。そこでは武士達が、心身を鍛え、農耕に従事し、平和な世にありながら武芸の鍛錬に励みました。麓を歩けば、薩摩の武士達の往時の生き様が見えてきます。」

日本遺産の認定は蒲生麓中心に9件、蒲生城跡、蒲生御仮屋門、御仮屋犬槇(一ツ葉)、蒲生八幡神社、蒲生のクス、太鼓踊り、蒲生の紙漉き、掛橋坂。(ほか、鹿児島城跡、垂水麓、志布志麓、知覧麓、加世田麓、串木野麓、入来麓、出水麓)

歴史ある関東蒲生会も蒲生にゆかりのある皆様方に支えられて令和元年で第58回の開催になります。この度、小倉収会長の関東始良市ふるさと会会長就任に伴い幹事長の山下憲男が会長を仰せつかりました。引き続き、何卒よろしくようお願い申し上げます。

※関東蒲生会は、今後も親睦団体として存続させる予定ですので、会員の皆様方より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



城山から見た麓の全景

昭和59年大河ドラマ「山河燃ゆ」は麓で撮影 主人公(天羽賢治:松本幸四郎)の実家(中原中通り)と幼少遊んだ八幡神社が放映実在の主人公(伊丹明)の実家は加治木町ですが撮影は武家屋敷の残る蒲生町上久徳の中原中通と八幡神社で行われました。

■ 関東蒲生会運営寄付金のお願い

関東蒲生会 会長 山下 憲男

ご承知のように関東蒲生会は年一回の総会・懇親会で会員相互の親睦と町との交流を主な役割としてまいりました。引き続き今後の運営も総会での決議に基づき続けてまいります。

一方、今回の総会・懇親会のご案内も含めた、通信費、印刷費、会議室使用料など1年間の維持運営を総会参加者の会費の中から捻出し、不足分は有志の寄付と幹事一同のボランティアで賄っているのが実情でございます。引き続き、関東蒲生会の会員の方々から広く運営寄付金の募金を募っております。

関東蒲生会の有志の方々から寄付を賜りますようお願い申し上げます。(振込用紙を同封してあります)



■ 第22回 渋谷・鹿児島おはら祭(令和元年5月19日開催) あいらびゅー踊り連連長 久富木 文子

本年第7回目の参加となった今年のおはら祭、本番の踊りパレードは5月19日(日)関東始良市ふるさと会の踊り手35名を中心に、プラカード、給水エスコート、カメラ班5名、始良市から参加の踊りの師匠の総勢41名で13:20スタート。鹿児島から9連、関東地区から57連、総勢2600人を超える踊りパレードが道玄坂、文化村通りを踊り歩きました。

昨年は西郷どんが目玉でしたが、今年は最年少5歳の女兒の踊り参加で、お母さんと一緒にパレードしてくれました。来年は入賞を目指すためにも、気持ちも顔も踊り姿もみんなが楽しんでる踊りをしたいなあ。なかなか受賞には至りませんが、応援に来てくださった皆様、物心両面の援助を下された皆様、パレード後の交流会にご参加頂いた皆様、ご支援を頂いた関東蒲生会、始良市ふるさと会関連の皆さまに心から感謝を申し上げます。

来年の第23回渋谷・鹿児島おはら祭は2020年5月17日(日)開催予定です。

第68回天文館おはら祭りが11月3日(日)文化の日に鹿児島・天文館で開催されます。

関東からも踊りに帰省しますので、ふるさと蒲生や、始良市在住の皆さまにも、どうか、踊りに、応援に来てたもんせとお伝えください。



『田の神さあサミット』開催の漆を愛し続けたい

常任幹事(会計担当) 佐多 智子(旧姓 横山)

蒲生の街から北に10Km程へ行き『トロの森』を思わせるような林のトンネルを抜け愛宕橋(あたごばし)を渡ると目の前に広がる素晴らしい景観、その山里が漆です。

かつては、二ヶ所の金山から900kg以上の金が採掘され昭和18年に閉山するまでは、さながらゴールドラッシュを思わせる賑わいを見せていたようです。

現在では坑道も塞がれ、当時の活気は無くなり、のどかな田畑が広がる山里となっています。また漆は寒暖の差もあり、日当たりも良く豊富な水にも恵まれている事から、美味しいお米がとれることでも知られており、その一連の農作業を畦で見守る『田の神さあ』もまた県下最古の像として有名です。

平成最後の年(30年)11月には『田の神さあサミット』というイベントが田んぼのまん中で開催され、県内外からも大勢の方々が来場されました。

そんな中で一番の盛り上がりを見せたのが8年振りに披露された漆地区の抱腹絶倒！創作劇『お米さんありがとう』でした。

古き良き時代の田植えから収穫までの米作り風景を音楽に合わせて踊ります。昔懐かしい足踏み脱穀機や唐箕(とうみ)などの農機具を使ったパフォーマンスや踊り手のひょうきんな仕草や表情など、見る人をグッと引きつけます。

更に実況を務める湯元秀誠議員の軽快なカゴンマ弁もその劇をより一層盛り上げました。最後は採りたての餅米で作ったお餅を観客に振る舞い終演となります。

実は私の母も以前、この踊り手の一人として活動していました。

あいた、あいた！
ヒーがかんち
たっ！

大変な準備もお客様がお腹をかかえて笑っている様子を見ると疲れが吹っ飛んだと話していました。是非、機会がありましたら見物してみてください。

漆は近年、人口よりもお猿さんの方が多くなり過疎化の一途を辿っておりますが、こうした住人の方が一致団結して村興しに力を注ぎ、また金鉱の再調査も始まるなど明るい将来の兆しも見えてきております。

この他にも、豊臣秀吉の朝鮮出兵時の凱旋祝いとして踊られた『バラ踊り』も今なお愛されています。

竹バラに和紙を貼ったバラ太鼓と鉦を打ち鳴らして踊るもので、攻守戦法の所作を表現しているものです。

現在は、漆小学校全児童に加え先生方も一緒になり、伝統を守り続けています。

これからも我が故郷、漆を愛し続けていきたいと思っております。



私は昭和37年の2月に生まれました。8人兄弟の長男です。実家は八幡神社を正面に向けて鳥居から左へ4～5件目の一力食堂の隣で、18歳まで住んでいました。

小さい頃は八幡神社や桜公園が縄張り、夏はセミやバッタ、カブトムシやクワガタを捕り、奥の山も探検して戦時中の防空壕の先住者のコウモリやゲジゲジを退治して基地を作ったり、5寸釘を焼いてたたいて手裏剣を作ったの忍者ごっこもしました。

川では自転車のスポークと竹とゴムでドッキ(水中銃)を作り、鯉や鰻をとっていました。3時のお茶(おやつ)も鶏小屋に来たスズメを捕まえて五右衛門風呂の火で焼いて食べていました。実家には豚小屋もあり鶏やうずら、うさぎも飼っていました。

悪れこつをすると、ばあちゃんから、えつをすえられ(線香の火を手につけられ)そうになったり、裏の納屋に閉じ込められたりして大泣きしていました。今考えると何をしたらそこまで、がられたかは思い出せませんが。

実家は商売をしており自家製の飴玉とジュース、夏はかき氷を作っていました。蒲生会や県人会等でお会いした方々が祖父が自転車でアイスクャンデーやボンボンジュースを売り歩いた事をご存じの方がたくさんおられました。

帖佐や加治木、吉田を越えて鹿児島市内まで商売に行っていたことを今になってその方達から東京で知らされました。

私はじいちゃん、ばあちゃん子なもので大変うれしくて思い出すと涙が出てきます。

東京の私の自宅の小さな仏壇の中には祖父母と父の写真があります。毎朝拝むたびに「身体に気を付けさせえ、気張れよ!!」という声が聞こえてきます。

5年ほど前に実家は売却しましたが蒲生町北に母親が住んでいますので帰郷の際はそこに泊ります。自分名義の山も有り、生きているうちは本籍は蒲生町のままです。

女房も二人の息子も元気ですので今はバリバリ仕事をして、この東京で頑張っって暮らしていこうと思っている57歳です。

いつか蒲生に帰る時まで……



関東蒲生会のホームページ

関東蒲生会のホームページをご覧ください!

全国の各地にお住まいの蒲生出身者、蒲生に縁の方々も自由に閲覧・投稿できます。

このホームページには総会・懇親会時の写真や関東始良市ふるさと会も色々と投稿されております。

ホームページ

<http://www.kamoukai.com>

メールアドレス

office@kamoukai.com